



センターサポートって何？



かがやき特別支援学校 草の実分校の取組～

平成29年度から、本校教員の肢体不自由に係る専門性の向上を図るため、子ども心身発達医療センター地域支援課のセラピスト（PT・OT・ST）から、学習活動における児童生徒の実態把握や課題解決等についてアドバイスを受けています。個々の児童生徒の支援に関するアドバイス以外にも、校内研修としての基礎講座や学部ごとの相談会の開催、放課後のセンターでの訓練の見学等、いろいろな場面でセンターと学校がつながり、協力・連携する取組を進めています。

●センターサポートの取組●

（事例）パソコンの授業

【パソコンの操作性の向上】

●左手のみでタイピングをしています、右手も使った方が、効率があがるのではないのでしょうか。姿勢も気になります。



◆体を安定させる方法やパソコンを使いやすくする方法を考えましょう！



①椅子の高さを上げ、足が浮かないように足台を置く。

②パソコンを机の奥に置き、手を机の上に置けるようにする。

③キーボードを斜め前方に傾け、見やすくする。



【成果】

- ◎右手で体を支えられるので、上半身が安定して体への負担が減った。
- ◎机の上に手を置いて作業できるようになり、作業効率が上がった。
- ◎キーボードが見やすくなり、作業効率が上がった。

【国語】

・発声練習で、よい姿勢を保ってはっきりとした声を出させたい。

- ▶体にあった椅子を用意する。踏ん張ると体幹が働く。
- ▶準備運動で、手を組んで頭上に伸ばす。
- ▶発声練習は、〇〇さんのテンポに合わせる。

- 椅子座位姿勢の改善
- 発声練習で声を確認
- ※今後は、発声を長くし、意味のある発語につなげる

その他のアドバイス

【からだ】

・褥瘡部位に負担をかけない姿勢・動作と、家でできるトレーニングを教えてほしい。

- ▶褥瘡に負担をかけないボール運動、下肢・上肢のトレーニングなど、取組やすい課題を用意する。
- ▶上肢を鍛えることで、下肢への負担を軽減する動きができる。

- 自分から積極的に動く姿の増加
- 体力がつき、体調もよくなり、褥瘡が改善

（事例）美術の授業

【主体的な活動】

●児童が、もっと活動しやすい方法はありませんか。



- ◆ボードの角度を調整したりボードを動かしたりして自発的な動きを誘発してみてもどうでしょうか。
- ◆ふわふわのスポンジより、もう少し固いものの方が、本人が手に持っていることを意識できるのではないのでしょうか。

【成果】

- ◎児童が、対象物を見ることができるようになった。
- ◎自分から手を動かし、着色できるようになった。



（連携・協力）

○すぐに実行できるアドバイスをたくさんいただきました。指導にフィードバックしている点を個別の検討会で説明し、セラピストと意見交換を行うことで、更に指導につなげることができました。（教員）

○先生方の取組がすばらしく、一緒にやってきた感が得られました。先生方の気づきから医療側の者が気づき、がんばれることも多いと思いました。（セラピスト）

○セラピストが、医療の立場としてどのような目的で、どのように子どもと関わっているかがよくわかりました。医療と教育の役割分担を明かにしてもっと連携を進めたいと思います。（教員）

センター・分校職員の声